

## 知的財産事例 東京システムインテグレート株式会社

# 既存事業から新たな知財の発見と育成を目指す

### 事業内容

- ・クラウド型中小企業向けERPパッケージ「BUCS 生産 / 販売管理」の販売
- ・案件、プロジェクトの収支管理パッケージ「BUCS プロジェクト収支管理」の販売
- ・自社技術の集積である「All Java SI フレームワーク」を使用した業務用テンプレートの開発ならびに各種業務用テンプレートを組み合わせた WEB システムの構築を行う

### 特許登録番号と内容

|                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 特許公開 2009-048359 | 情報処理装置の監視・管理システム   |
| 特許公開 2009-017414 | 情報漏洩監視システム         |
| 特許公開 2008-084289 | 情報処理装置の情報漏洩監視・管理方式 |
| 特許第 3963932 号    | 情報処理装置の情報漏洩監視・管理方式 |
| 商標登録第 5050317 号  | Recman             |



(2011 年 7 月現在) 代表取締役 浅野吉央さん

## 発想の転換から生まれたアイデアで特許取得

自社技術の集積である「All Java SI フレームワーク」を使用したパッケージソフトの開発を行う東京システムインテグレート株式会社。中でも製造業向け商品を数多く手掛け、高い評価を得ている。

同社は、2008 年自社開発システム「RecMan」（レックマン）で初めて特許を取得。浅野吉央代表取締役は、「社内ネットワークに接続されているパソコンが特定のプログラム等にアクセスした際、画面を自動的に録画し、録画した画面を再生できるという製品です」と解説する。管理者は誰がどんな画面を開いたかがわかるので、情報漏えい対策になる。停電などでデータが消えたときはバックアップの役割を務めるなど、さまざまな活用法がある。

製品の開発は、パソコン画面を録画できると便利なのではないかという浅野代表のひらめきから始まった。「すぐメモ書きレベルの設計図を作り、社内の技術者に相談し、サンプルを作りました」と浅野代表は当時を振り返る。同時に“こんな発想は、今までにあったのだろうか”と思い、弁理士に調べてもらうとすぐオンリーワンのアイデアと判明。それなら特許を取ろうと考えたという。特許を申請する際、ノウハウが公開されることにとまどう企業が多いが「われわれの世界はソースコードが命。これは書類に掲載しないので、システムを模倣される心配はありません」と浅野代表は説明する。

その結果、出願から約 8 か月で特許取得。早期審査制度を使ったとはいえ、異例のスピードである。

## 画期的な発明とビジネスの成功は別物だとあらためて認識

「特許取得後は、自然の流れで商品化することにしました。ここでも幸いよき協力者に恵まれ、基本製品の開発まで実に順調に進みました」と浅野代表。

画期的なアイデアはすぐ話題になった。しかも特許取得という実績は、商品と同社の信頼の裏付けになり、他社との差別化にも貢献した。人脈も大幅に広がり、1 年かけて約 150 社をマーケティングする機会を得たという。浅野社長は「技術者の目線で作った製品なので、他分野の方の意見を拝聴できたのは、大きな収穫。ここで得たご意見を生かし、再度見直しをかけて、ブラッシュアップしました」と話す。

一見、理想的な展開だ。しかし次第に問題が浮上し、同社を悩ませるようになった。まずマーケティングの 1 年間、この商品に関してはコストが発生するばかり。収益がないので、従来から手掛ける根幹事業に負担をかけてしまう。さらに大きな期待を込めて発売したものの、情報漏えい対策より監視の要素が強く、なかなか受け入れられない事態に陥ってしまったのだ。

浅野代表は、「おもしろい発想が浮かび、たまたま協力者に恵まれたので突っ走ってしまいましたが、今思えば、特許取得後に一度立ち止まり、まずはサンプルを持ってマーケティングするべきでした。予想外に早く特

### COMPANY DATA

所在地：東京都千代田区神田岩本町 15 番地 4 山上ビル東館 3 階  
電話番号：03-3256-2601 URL：http://www.sysint.co.jp/  
設立：1991 年 3 月 19 日 資本金：7,500 万円（2011 年 7 月現在）  
売上高：未公開 従業員数：15 人（2011 年 7 月現在）



「BUCS 専用サイト」⇒http://www.bucs.jp

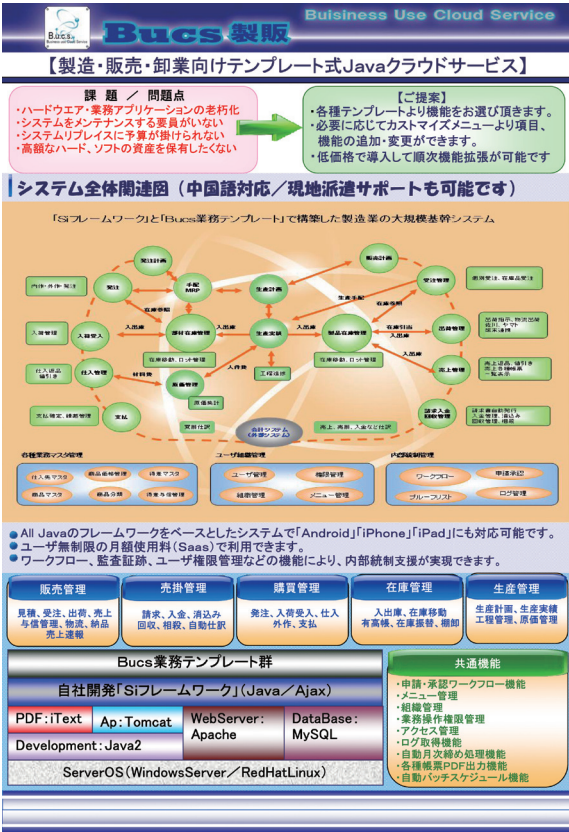
許が取れたので浮かれてしまった……大きな反省点です。まずビジネスとして成り立つのかを見極め、方向性を決めてから製品化に着手すべきだったと、痛感しています」。

そこで現在はこの優れた発想をビジネス面でも成功させるため、多角度から再構築している。

## 自社が特化した分野からヒントを得て製品化、そして特許取得へ

この苦い経験は、知的財産に関する考え方に大きな影響を与えた。浅野代表は「今、強く思うのは、自分たちの事業から新しいニーズやサービスを見だし、それを製品化したり、特許取得するのが賢明な方法。地に足がついた理想的な知財活用法だと思います。熟知している分野ならば、開発コストも製品化のリスクも小さいですし」と話す。

その言葉を具現化したのが、クラウド型中小企業向けERPパッケージ「BUCS 生産 / 販売管理」である。自社技術の集積である「All Java SI フレームワーク」を使用した、各種業務用テンプレートを組み合わせるこ



「All Java 製造業イントラネット基幹システム」

とで「安く」「早く」「高品質」な基幹システムが構築できるというものだ。

「製造業がトータル的に使える WEB アプリケーションは、今までありませんでした。そこで必要なものを点レベルにまで落とし込んで作り込み、製造業に特化したシステムを作ろうと考えたのです」と浅野代表は話す。

この商品は今後、導入数が増えて周知されてきたら、商標等を取る予定。「今までの蓄積を知財として認識し、そこから“気づき”を得て、ニッチな市場を攻めていく。これが自社の知財や強みを育てるし、他社との差別化につながると思います」と浅野代表。これからは既存事業を大切に育てながら、並行してレックマンのビジネスも軌道に乗せていきたいと意欲を見せる。

さまざまな経験を通して、知財活用の方角性を見いだしてきた同社。これからのさらなる活動と新たな展開が楽しみだ。

## 知的財産活用のポイント

したい”との狙いから。「日々の小さなアイデアが、大きく育つことも少なくないと思います」。

日常の気づきこそが、かけがえのない知財の種。大切に育てていきたいと意欲的に話す。

## 日々の業務から生まれる小さなアイデアこそが宝

浅野代表は、常に情報のアンテナを張って市場ニーズをつかむことや、そこから生まれる発想を重要視している。同社の社員の大半は、技術者であると同時に営業も手掛けているが、これも“現場で新たなニーズを見つけてくる人材を育成